

新年度の始まりにあたって

令和3年度は、新型コロナウイルスとその変異ウイルスの感染流行の中で始まりました。5月から始業時刻を平常に戻すことについてはご心配な方もいらっしゃると思いますが、学校での子どもたちの生活の充実のために必要なことであることをご理解いただきたいと思います。なお、学校では、感染対策を継続しつつ、子どもたちの学びと活動が安全に行われるように努めて参ります。

新年度の始まりにあたって、教職員で次のことを確認いたしました。

\*\*\*\*\*

桐光学園小学校 2021

ICT元年として新たな教育が展開されていることに期待する。

ただ、何もかもが新しいものに生まれ変わる必要はなく、桐光学園小学校でこれまで進めてきた教育活動を基本とし、かつ多くの人が認めるところである「知・徳・体」のバランスのとれた教育を大切にし、子どもの成長を願い、教員としてどのように子どもたちに向き合うかが問われる。

桐光学園小学校の25年間の実践で、私たちは多くの経験を積み重ねながら学んできたことで、これからやるべきことは見えてきている。教員一人ひとりがよく考え日々の実践をしていく。

私たちが望む「子ども像」

- 1 思いやりと優しさを持つ子ども
- 2 受容力と発信力を持つ子ども
- 3 議論できる子ども

これらを意識し、子どもの成長段階を考えた学級経営を心がける。

\*\*\*\*\*

開校時にコンピューター室として用意しておいた部屋に、1クラスの子どもたちが使うことができるパソコンを設置したのは開校3年目でした。そのころから、桐光学園小学校の総合の授業は、農園活動とパソコンを使った学習の2つを中心に進めることにしていました。当時はインターネットの利用がここまで私たちの日常に深く関わってくることは予想できませんでしたが、パソコンを学習の一つの道具として使いこなせるようにしていく考え方は、現在のように様々な機器を使用することと同じことだったと考えます。これからの世界を生きていく子どもたちには使って当たり前前の機器でしょうが、それを学校でどのように使うことがよいのかを考えながら実践していくこととなります。

また、子どもたちと日常生活を共にして、「意志・表現・感謝」の心育ての大切さを常に意識しているものの、具体的な子どもたちに向けたメッセージとなっているか、子どもたちに届いているかと考えることがあります。校訓を学年や成長段階に合わせて分かりやすく示してはいるものの、同時に上記の3つのことがらを、学校が一つとなって目指していく必要があると考えています。「思いやりと優しさ」「受容と発信」「議論」などの力は子どもたちそれぞれが持っている力です。しかし、その力を発揮できる場を作ることができなければ、その力はだんだんと必要のないものとなっていくことでしょう。これが学校に与えられた大きな課題です。

課題と言えば、日々子どもたちと向き合う教員は、常に新しい課題と出会います。逆のことを言えば、課題と出会わない教員はそれを見つける力がないということにもなります。36人の子どもたちが生活する学級ですから、そこには喜びを身体全体で表す子もいれば、悔しい思いや悲しい思いを心にため込んでいる子もいるかもしれません。そういう子たちと共に喜び、共に悩み、そして一緒に前に進むことができるのが教員のやりがいの一つです。そこには、当然のことながら保護者の理解と協力がなければなりません。大切なことは子ども自身が自らの力で前に進むことができるようになることです。そのために教師、保護者が何をすべきかを一緒に考えていけるといいですね。子どもへの諦め、学校（教師）への諦めは課題解決にはつながりません。

最後に・・・

先日の放課後の連絡会（一日の振り返りを全教職員で）で、「最近トイレに使用済みのトイレトペーパーの芯が落ちていることがあるので、トイレの確認をお願いします」という発言がありました。教員たちもいろいろなところに目を配ってくれていることを嬉しく思いましたが、本当はそういうことも子どもたちも巻き込んだ取り組みにしていくことが大切だと考えます。2013年の校長室だより（73号）に【あと一つできること】ということで短い文章を書きました。考えてみればもう8年も前のことだったので。些細なことでも、繰り返し伝えていかなければならないということを反省を込めて実感いたしました。

（保護者の皆様に直接お話をさせていただくことができないため今回のたよりの発行といたしました）